



子どもの居場所づくり  
地域ではくくむ

さあ、

# 子どもたちと ふれあおう!



## 集団遊びを通じて自助と共助の心を育む

— 今泉小学校 (栃木県) —

2008年10月29日 (水)、

栃木県宇都宮市立今泉小学校  
で第1回「遊びの広場」が行

われた。これは集団遊びを通

じて子どもの人間力 (自助と

共助の力) を育もうというも

ので、当財団が文部科学省か

ら委託を受け、全国5つの小学校でモデル的に取  
り組んでいる事業である。宇都宮の「遊びの広場」  
の様子を紹介する。

(取材・文/鈴木 さや香)

「これから、ハロウィンパーティーを始めます!」

女の子たちが楽しみに宣言し、楽しいハロウィン

仮装大会が始まった。子どもたちは「かぼちゃ」

「こうもり」「魔女」など、扮するもの7グルー

プに分かれ、進行役の女の子たちが本日の流れを

説明すると、早速衣装作りへ。材料は黒やオレン

ジなど色とりどりのビニール袋やキラキラのビニ  
ールテープ、新聞紙やトイレットペーパーなど、  
身近な物ばかり。

子どもたちは目を輝かせて、夢中で思い思いの  
衣装を作っていく。ある子はトイレットペーパー  
をぐるぐる巻きにしてミイラに、ある子はビニ  
ール袋を組み合わせてマントやドレスに。みんな口  
々に「楽しい!」と、非

常に生き生きとしていた。

これだけ熱気にあふれて

いるのは、このハロウィン

パーティーが子どもた

ちの企画によることも大

きい。

さわやか福祉財団が企

画した「遊びの広場」は、

子どもたちによる子ども



子どもたちは瞬間に変身!



会議で遊びの内容を決めるところに特色がある。自分たちでみんなと遊べる遊びを考え、進めていく。大人たちは実行委員会をつくってそれをサポートする。日頃できないことや思っていることを自分の力で実現し、互いに協力しながら思いを形作っていく。それによって主体性や、互いに支え合う心を育てていこうというものだ。

今回、事前に開かれた子ども会議では予想以上に活発な意見が出たという。コーディネーターとして宇都宮での事業を支える大門美砂子さんは「みんな言いたくて言いたくて仕方ないといった

感じで、本当にいろいろな意見が出たんです。でもその中から『ハロウィンパーティーやりたい！』  
『じゃあ、仮装やりたい！』そんな声が上がってきて、全員が賛成してハロウィン仮装大会をするこ  
とになったんです」と話す。

これを支える大人の実行委員会  
は、副校長やPTA、教育委員会、

けやきのもり（宇都宮市独自の放課後事業）運営委員などからなる。「大人が企画するものよりも子どもたちが企画したからか、とつても生き生きとしていた」と子どもたちの熱心な様子に驚いていた。

仮装大会当日、1年生から5年生まで、なるべく各グループで均等になるようにと5年生にはお願いした。すると自主的にグループを変更したり、上級生が小さい子の面倒を見たり、グループ内をまとめたりとお互いに協力し合う姿が随所に見られた。また、今まで知らなかった子どもも仲良く作業をしたりと、生き生きと自然にふれあう子どもたちの姿も印象的だった。また保護者からは「日頃家ではできないことなので、とても楽しんだようです。ありがとうございます」という感謝の声も。

ちよつとした環境を整えるだけで、子どもたちは自分たちの力で育つことができる。今後4回の広場が開かれるが、回数を重ねることにどう子どもたちが成長していくのか、期待したい。

